



社会就労センター「セルフ」

石川セルフニュース



(チャンス) 障害者に働く機会を!
(チャレンジ) 挑戦する勇気を!
(チェンジ) よりよい改善を!

NO. 5

発行 石川県社会就労センター協議会
編集 会報研修委員会
発行責任者 湊 孝次郎
〒920-0946
金沢市本多町3丁目1番10号
(石川県社会福祉協議会内)
TEL (076) 224-1212



施設紹介

小松市立身体障害者授産施設九谷の里

小松市正蓮寺町セイ谷10番地

当施設は、昭和56年6月入所定員50名の九谷工芸身体障害者授産施設として、小松市が設置し、利用者13名でスタートしました。

発足時から数年は、成形科及び上絵科の2科で運営してきましたが、幅広い授産科目を取り入れるということで、昭和62年に間仕切用ポール組立科、平成2年に情報処理科を増設しました。さらに、最近の社会経済情勢の変動や障害の重度化等の要因による、授産事業収益の減少を補うために、新たな事業科目として売店、食堂科(ジョイフルショップ)を平成11年4月より小松市老人福祉センター千松閣に設ける予定です。

現在の定員数は入所40名、通所10名で、利用者32名が4科に分かれて作業訓練をしています。訓練には技術のすぐれた指導員が、初心者でも早く

技術を覚えられるよう、合理的に作業を指導しています。

処遇においては、日常の健康状態の把握に努めていること、精神的分野で良きアドバイザーとして利用者の心情に応えていること、夢のある生活環境を創る一環として色々な行事を企画実施していること、年3回の家庭研修を行なうことにより、ノーマライゼーションの一環として積極的に社会に融合する機会を与えると共に、日頃疎遠になりがちな家族との和を深めることなどに努めています。

ともあれ当施設では、周りが自然で静かな環境に恵まれていることもあり、これと相俟って、利用者にとってゆとりある生活の場、魅力ある生活の場となるよう職員一同頑張っています。

～ 翔点 ～

売れる工夫と継続

私は、当施設では仕事から利用者処遇や授産事業に関わる機会はほとんどない。そんな中で唯一事業に協力していることといえば、ある店へのドーナツの配達である。家から近いということもあり、週に2回はそこを訪れる。1回目は配達で裏から入り、2回目は客として買い物に出かけドーナツの売れ行きを確かめる。裏と表とでは従業員の対応に微妙な違いを感じる。従業員と客の立場が逆転すれば当然のことかもしれない。見方を変えれば、お客には意図的に細かな気配りがなされているとも言える。そうした気配りが自分自身の人間性としてしっかり身に付けば、どんな立場でも気のきいた優しい対応ができるのではないか。そう言えば2年ほど前に、接遇マナーと題して、お客に対する言葉遣い、あいさつ、お辞儀の仕方などの話をしてもらったことがあった。その時はなるほどと聞いていたものの、今思うと実際自分のこととして受けとめ生かしきれていなかったように思う。

ところで、石川セルプの研修会の中で、アルプ

若草福祉作業所

事務長 木下 俊郎

ラザ支配人の話を聞くことができた。通路の設け方や商品の陳列方法、試食品の効果そのほか買い物以外に楽しめる工夫など、いろいろなデータに基づく現実的な興味深い内容であった。その事を頭に思い浮かべ買い物をしてみると、実に面白い。お客を集め買ってもらうために、特売日やタイムサービス、量り売り等、実に様々な工夫を凝らしていることに気づく。そして、その工夫が日に日に変化しお客を飽きさせない。当施設では、店舗と簡単な喫茶を設け、お客を集め自主製品を売り込むために日々努力している。単発的な工夫はできても、商品内容や販売方法等に变化を持たせ、お客を飽きさせないとなるとなかなか難しい。

石川セルプ振興センターができ、商品開発や販売に関する研修の機会も多くなった。これが形だけで終わらないためには、各施設でどう生かしたらよいか工夫し、そこに变化を持たせ継続する中で、売り上げに結びつけたい。そしてそのことが石川セルプの発展にもつながるのではないだろうか。

「NHK障害福祉フォーラム」の概要と報告

ひろびろ作業所

所長 野市 源朔

去る平成11年2月13日(土)、石川県社会福祉会館において「障害のある人たちの自立と社会参加をめざして」というテーマで、講演会とシンポジウムが開催された。

基調報告では岐阜大学教育学部教授の谷崎毅氏が、働く場を中心として考えてみて、「地域で生きる」とはどういうことなのか。今、論議の的になっている施設の統合化、地域化、そして小規模化に最も適切柔軟に対応しているのは小規模作業所なのである。そこで、作業所に対する公的援助はもちろんであるが、作業所自体がこれからどのような姿勢で取り組んでいくのかについて示唆に富む話をされた。

続くシンポジウム「自立と社会参加を促進するには」では、近藤守氏(ひろびろ福祉会理事・行政書士)をコーディネーターに、橋本八重子(根上町手をつなぐ育成会)、俵輝明(石川県立明和養護学校長)、湊孝次郎(知的障害者社会就労セ

ンターみのり園長)、野市源朔(身体障害者社会就労センターひろびろ作業所長)、中田なみ子(精神障害者小規模作業所ワークハウスつばさ所長)の各氏が、親、学校、あるいは施設、作業所の立場から自立についての私見を述べた後、さらに具体的な展開例を紹介していただいた。その後フロアーからの発言も交え、協議した。

今回のフォーラムの特色といえば、学校と施設という「タテ」のつながりについて考える機会になったこと、又、障害の種別をこえて互いに理解し合える「ヨコ」の広がりをもたせたことである。これらはこれからの協議会の在り方を示していると思う。

参加者は県社協の呼びかけで利用者も含め130名ほどであったが、さまざまな立場の人が参加されたことに注目したいものである。



のびやか賞

論文選考結果
(平成10年度)

処遇・実践部門

- ◇「のびやか賞」
 - ・南陽園 矢鋪 幸代
テーマ 『QOL(生活の質)の向上を目指して』
～“選ぶ”ことを重視した入園者旅行の実践～
- ◇「のびやか奨励賞」(1論文)
 - ・みのり園 笹田 圭子
テーマ 『翔べ京子!』
一場面緘黙との関わり
- ◇「のびやか努力賞」(5論文)
 - ・青山彩光苑 ワークセンター田鶴浜 角 秀夫
テーマ 『作業日課と主体的作業体制への援助』
 - ・青山彩光苑 ワークセンター田鶴浜 齊藤志加子
テーマ 『一周年記念行事をとおして』
やまびこ学園 吉本真紀子
テーマ 『ボランティア交流から思うこと』
 - ・やまびこ学園 森川 章
テーマ 『施設の目的を考える』
 - ・今浜苑 谷辺喜代美・真田 明子
テーマ 『心と心のふれあい』

セルフ事業振興部門

- ◇「のびやか賞」
 - ・みのり園 三浦 克欣
テーマ 『おばちゃん、買うてって~!』
～アスティ販売の実践～
- ◇「のびやか奨励賞」(2論文)
 - ・聖ヨゼフ苑作業所 笠間 信彦
テーマ 『プレート製品(自主商品)の
開発について』
- ・南陽園 岸本 知也
テーマ 『生産性の向上』
一般の企業と同等のもしくはそれ以上の
努力とは社会への窓口としての“労働と生産”その内容
- ◇「のびやか努力賞」(5論文)
 - ・やまびこ学園 丸山 秀樹
テーマ 『販売を通した利用者の社会参加』
一販売を通して、地域社会に積極的に
参加し、それが働くことの活力に
つながることを目指して
 - ・青山彩光苑 ワークセンター田鶴浜 湊 拓也
テーマ 『社会就労センターにおける
利用者と花事業の取り組みについて』
 - ・青山彩光苑 ワークセンター田鶴浜 北野 雄一
テーマ 『葉ネギ栽培・出荷における作業指導』
 - ・聖ヨゼフ苑作業所 浅井 京子
テーマ 『パン・菓子班の一日』
 - ・若草福祉作業所 針田 晃次・湯浅 恭子
テーマ 『食品加工作業の取組』

のびやか賞の選考を終えて

県手をつなぐ育成会事務局長 寺島 笑子
わたしがのびやか賞の選考委員をお引き受けしたの
は第2回からであるが、実のところ授産施設

を外から見ている立場で果たして的確な選考がやれるのか不安だった。兎に角、この際施設に携わる皆さんのことを少しでも理解できると思い承諾した。今回の応募論文は7施設15編となり過去最高だった。のびやか賞に該当した2編について他の選考委員の方々のご意見もまじえて一端を述べたいと思う。

☆南陽園の「QOLの向上を目指して」は先ず園の業務分掌を改革した新体制の中で、選ぶことの大切さをこの人たちが感じとるための旅行アンケートを試みたことは時宜を得ていた。これからも彼らが選ぶという態度をもちつづけ彼らなりの生活の質を向上させてほしいと思った。

☆みのり園の「おばちゃん、買うてって」はまさにセルプの看板に相応しく販売方法の一考察として如何にこの人たちが施設から外に出て街ゆく人とのかかわりをもつことが大事だという実態がよく判った。又従来だと大抵指導員が付き添っているが彼らだけですべてやれることは、すばらしいと思った。セルプへの切り替えにより事業振興は当然肝要であるが重い人を対象にした処遇について今後も一層の研究を続けられるよう願うものである。

手作りのおみせ

「いきいきギャラリー」訪問記

金沢市横安江町3番16号 TEL(076)221-2307

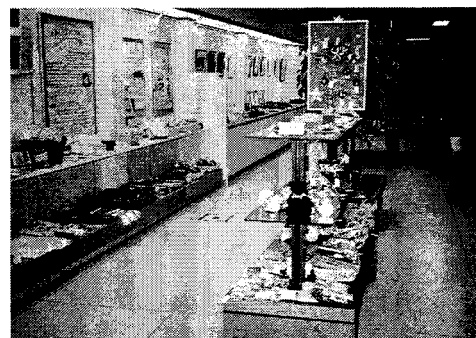
金沢市横安江町アーケード街中程に、昨年9月開店した「いきいきギャラリー」は、金沢市社会福祉協議会が、高齢者・障害者福祉の発信と商店街の活性化などの目的で運営を始めたお店である。

店内に入ると2階が吹き抜けになっていてとても広々とした空間で、そこに小奇麗に各施設の商品が並べられていて、名前の通りいきいきとしたギャラリーといった感じであり、奥には数人がゆったりとくつろげるスペースもある。ここに商品を入れているのは、金沢市の老人連合会などの老人団体や、社会就労センター、更生施設、小規模作業所など19の施設・団体などで、今のところ、月40万円～50万円の売上げがありとても順調な感じである。

また、電動スクーターの貸し出しや、ボランティアの方による手作り教室やお茶会なども行われていて、商品の展示販売以外に福祉の発信や、市民の交流の場としての役割も果たしているとのこと。

一施設の職員として行政側のアイデアと努力に感謝と賛辞を贈りたいと思う。

(記者：聖ヨゼフ苑、笠間)



● 販売促進部から ●

金沢地区から

金沢地区 若草作業所 秋山 和紀

平成10年度、金沢地区においては、5月のジャスコ松任店と11月の同じく杜の里店の2回セルフフェアが開催された。この2店ともここ数年定例となっているので、これを目的として来店される方も少なからずおられるように思う。毎回いろいろな準備段階を経て開催にこぎつけるのであるが、平均売り上げを見るとほぼ前回同様の感がする。どうしてももう少し伸びないのか。提供されている場所はいずれもお客の集まりそうな好条件。販売陳列についても店側から各種の提案をいただいている。となると各就労センターが一度フェアについて考え直さなければならぬ時期に来ているのではないだろうか。平成不況と言われながらも、我々はそれを実感しているのだろうか。フェア開催に当たってはその都度、お客に喜んでもらえるような企画を考えて実行はしている。しかし売り上げのみを見てみると頷ける程ではない。売り上げを主とするか、参加することに意義を見出すのかは各就労センターの考えいかんによるが石川セルフ振興センターも開設されて2年、新たな段階を迎えていると思う。

杜の里店においては今回初めての試みとして“石川福井合同フェア”も開催された。

能登におけるセルフフェア

今浜苑 菊沢 修

能登では、今年度2回目のセルフフェアが、アプラザ鹿島店にて、2月11日～14日の4日間開催される。

12月に行われた前回のセルフフェアでは、新しい試みとして販売員に各施設職員だけでなく利用者にもお願ひし、皆さん積極的に「いらっしやいませ」「ありがとうございます」と接客態度も素晴らしく大変好評を得た。商品陳列も「とにかく売ってみよう！」を最優先させ、前日の反省や支配人の指導のもと朝陳列替えも毎日であった。

実際に替えたことにより2日目3日目と売上げの伸びた商品もあった。

しかし今回の搬入時、商品を並び終えた時、支配人より「ボリューム感がぜんぜんないですね」と一言。何か足りない迫力がないと思っていた矢先の一言であった。ただ単純に商品を山の様に積みあげればよいのか、品数を増やせばよいのか、宣伝方法は、目玉は…、各施設フェアを経験してきたことにより売れない商品は排除され品数が少なくなってきた現状、今回のフェアが各施設のセルフに対しての意気込みと思いと心を込めての接客で伸び悩み現状のフェアをどのように打破できるのか、能登のスタッフは、工夫を重ね今まで以上に力を出して見たいと思う。

追伸、2月11日～14日のセルフフェア、2日目からは、あいにくの雪と冷え込みで客足が減少してしまった。そんな中での90万円近くの売上げは、健闘したのではないかと考えている。

今年度のセルフフェア・ショップの経過・反省

販売促進部副部長 橋爪 隆明

今年度のイベントも3月25日から福井で開催される予定の福井、石川合同セルフフェアを残すだけとなりました。

今年度は昨年度と違う点が大きく2点ありました。まず一点目は、昨年度と比べてかなりたくさんイベントにセルフショップとして参加したこと。そして2点目は、福井県との初の合同セルフフェアを開催したこと。

この2点が大きく効果を発揮して今年度の目標金額を達成できるところまでできました。そういう意味では、昨年度と比べて今年度は着実に石川セルフ振興センターとして進歩したのではないかと思います。

しかし、全国のセルフ振興センターを見ると比較にならないほど発展しているところがたくさんありました。

来年度以降はそういう発展しているところを目標として、さらに努力して発展できればいいと思います。

今年度売れ筋商品ベスト10 (1～5回セルフフェア集計)

売り上げ金額順

No.	商品分類	商品名	施設名	合計金額
1	菓子・パン類	ミックスチップ	ふれあい工房あざし	139,300
2	菓子・パン類	グリエ	聖ヨゼフ苑作業所	122,200
3	工芸品	花瓶	九谷の里	100,000
4	工芸品	小さな音楽会	南陽園	92,000
5	加工食品	ままかりしいたけ(ごま入り)	今浜苑	74,600
6	菓子・パン類	レーズンパサン	やちぐさ作業所	68,800
7	農林畜産	生しいたけ	今浜苑	65,280
8	工芸品	花瓶	九谷の里	60,000
9	加工食品	ままかりしいたけ(さんしょ入り)	今浜苑	58,000
10	工芸品	銀杏ペアセット	南陽園	56,500

売り上げ数量順

No.	商品分類	商品名	施設名	合計数量
1	菓子・パン類	グリエ	聖ヨゼフ苑作業所	1,222
2	加工食品	デカ山納豆	みのり園	831
3	農林畜産	生しいたけ	今浜苑	544
4	菓子・パン類	マドレーヌ	あけぼの作業所	542
5	菓子・パン類	ミックスチップ	ふれあい工房あざし	398
6	加工食品	ままかりしいたけ(ごま入り)	今浜苑	373
7	菓子・パン類	レーズンパサン	やちぐさ作業所	344
8	加工食品	ままかりしいたけ(さんしょ入り)	今浜苑	290
9	菓子・パン類	アーモンドパサン	やちぐさ作業所	254
10	菓子・パン類	大堅パン	やちぐさ作業所	244

今年度売り上げ集計・分析

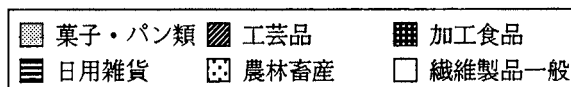
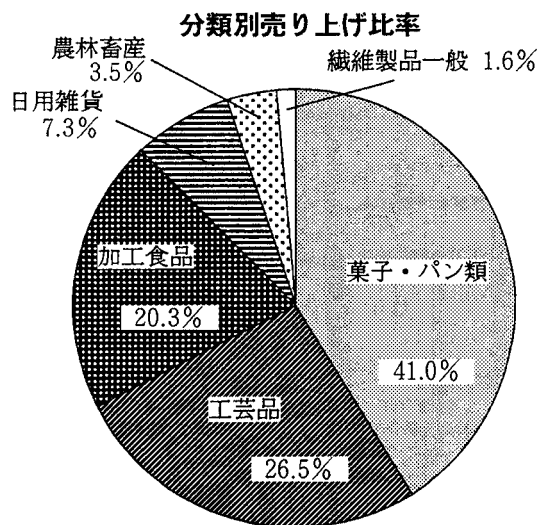
石川セルプ振興センター調査・広報部

セルプフェア売り上げ

開催店	期間	売上金額	参加施設数	企 画
ジャスコ松任	6/19~21	911,425	18	父の日写真プリントTシャツ
アピオシティ加賀	7/18~20	740,255	17	デジタル写真でカレンダー
ジャスコ杜の里	11/20~23	945,115	15+5(福井)+1(小規模)	福井の水仙プレゼント
アル・プラザ鹿島	12/11~13	778,530	17	テディー・ベア販売
ジャスコ新小松	1/15~17	812,280	15+1(小規模)	北海道フェア・ジャガイモプレゼント
アル・プラザ鹿島	2/11~14	892,641	17	フリージアプレゼント
	売上合計	5,080,246		

セルプショップ売り上げ

名 称	期間	会 場	売上金額	参加施設数
トヨタオート記念フェア	5/17~18	アル・プラザ金沢	68,645	8
ゆうあいピック	5/31	西部陸上競技場	559,322	12
保育研究大会	7/17	金沢観光会館	106,425	9
星が岡コンサート	7/26	星が岡牧場	61,090	5
ふれあい広場	9/6	南陽園	208,059	5
福祉まつり	9/23	コスモアイル羽咋	198,985	9
部落解放研究全国集会	9/26~28	産業展示館4号館	348,970	6
れクリエイト加賀	10/10	加賀市中央公園	149,780	5
徳田まつり	10/10	能登国分寺公園	38,050	2
野々市フェスティバル	10/11	椿 荘	27,800	2
七尾市障害フェスティバル	10/24~25	七尾市サンライフプラザ	394,220	6
若草福祉祭	10/25	若草作業所	51,450	2
県社会福祉大会	10/30	のとふれあい文化センター	164,050	5
小松インポートフェア	10/30~3	小松駅前	156,230	3
フリーマーケット	11/3	中央公園	28,050	1
石川学びフェスタ	11/14~15	アル・プラザ鹿島	211,340	5
障害者フェスティバル	11/15	石川県産業展示館	749,490	17
彩光祭	12/6	青山彩光苑	91,900	5
		売上合計	3,613,856	



セルプフェア施設別売り上げ表(5回フェアまでの集計)

順位	施設名	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		数量合計	金額合計
		数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
1	九 谷 の 里	127	140,800	235	134,500	60	60,100	125	104,400	59	53,350	606	493,150
2	南 陽 園	197	97,400	134	162,590	92	48,250	104	50,900	97	48,950	624	408,090
3	今 浜 苑	275	49,340	244	45,700	611	97,580	515	88,230	470	72,860	2,115	353,710
4	ふれあい工房あぎし	245	75,950	170	53,100	175	54,550	223	58,100	171	49,600	984	291,300
5	やちぐさ作業所	293	60,200	252	51,200	346	64,600	271	53,900	202	40,400	1,364	270,300
6	聖ヨゼフ苑作業所	467	59,440	258	38,720	484	65,600	364	48,020	278	43,120	1,851	254,900
7	あけぼの作業所	419	61,930	316	41,910	313	61,520	247	32,490	262	35,620	1,557	233,470
8	みのり園	286	33,610	324	39,760	396	45,020	466	58,860	498	55,410	1,970	232,660
9	松 の 実 園	215	59,040	153	29,160	232	60,970	152	37,320	152	39,140	904	225,630
10	やまびこ学園	39	16,900	99	59,650	106	36,600	52	32,550	41	34,950	337	180,650
11	若草福祉作業所	61	42,920	18	10,150	166	54,340	104	33,990	77	25,660	426	167,060
12	セルプはくさん	19	139,600					27	11,200			46	150,800
13	ひろびろ作業所	51	15,310	34	18,585	72	48,895	61	32,560	74	32,790	292	148,140
14	けやき野苑	34	14,000	63	19,100	22	5,400	61	20,200	80	18,960	260	77,660
15	うちなだ福祉作業所	47	11,720	45	10,760	85	20,280	118	26,960			295	69,720
16	セルプあさがお	121	22,670	59	11,230	85	16,790					265	50,690
17	キッチンクラブおしみず							360	49,400			360	49,400
18	幸 徳 園	120	17,550	83	12,800					77	10,800	280	41,150
19	コミュニティーセンターたんぼぼ					34	18,900			17	10,600	51	29,500
20	青山彩光苑ワークセンター田鶴浜							74	19,990			74	19,990
21	うめの木学園	24	2,880	27	3,240					80	9,600	131	15,720
	セルプ振興センター					9	7,200	38	30,400	850	228,970	897	266,570

グループホームの現況と課題

松の実園 施設長 達本美智子

地域福祉が重要視されている現在、知的障害者は過去の歴史では、人里離れた所に施設を作り、そこに預けられていたのに、生活の場を地域に移すということには大きな課題があります。

平成元年厚生省は知的障害者も地域で生活していく方法として、「グループホーム」という形で出され、所謂健常者と共にその地域で普通に生活する「共生」という形で4～5人が普通の住居に住み家庭生活を営んで地域社会の一員として生活することを支援していく事にしました。

地域社会で生活するためには、住居費、食費などの負担を負うのが当然ですが、知的に障害があるために、他の人とちがった必要なサービスをしていかなければなりません。その部分を補うことが前提であり、その「補い」をする為にグループホームという形が必要になるのです。

したがって、住宅を見つけ、就労して経済生活の収入が或程度ある人がそこに住む、というだけでなく補いの部分を計画運営する所(バックアップ施設)と、その居住者の面倒をみたり話相手になれる人(世話人)がいなければなりません。現在県内には18ヶ所のグループホームがあります。

松の実園では平成7年、女性利用者が家を出なければならなくなり、借りる家があったのでそこをグループホームにしたいと思い、残り3人を集めようとしたのですが、家へ帰れば勝手気ままにしているので共同生活に馴染まず2・3ヶ月で退所するなどの通所の悩みも1年ばかり続きましたが、現在は4人がそれなりに馴れて、思い思いで楽しんでます。

昨年10月より男性5人のグループホームが認可され、女性よりも気楽にスムーズに出発できました。ちなみに女性4人のうち、一般就労3人、福祉就労1人、男性5人のうち、一般就労4人、福祉就労1人という現状です。

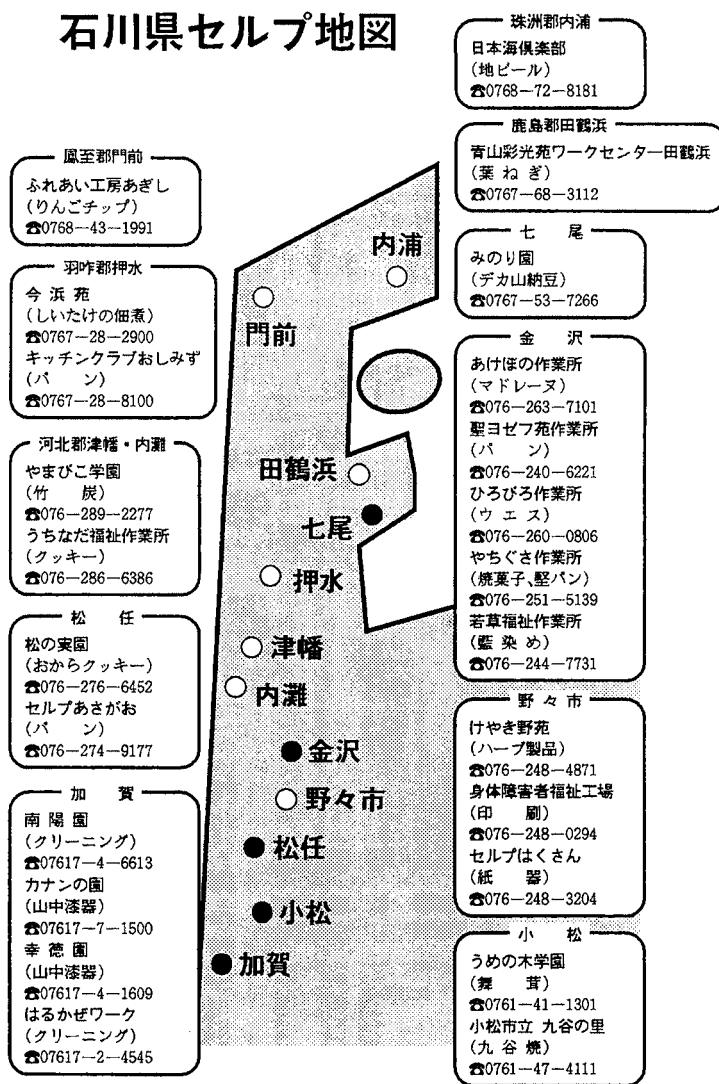
最後に課題として考えられる事としては

- 1 住居の問題です。発足当時は1人の居室は4.5帖、2人ならば6帖以上、それに談話する部屋があることというのが、現在の居室は全員個室であり、他人の部屋を通過して自室へ行く事は許されない。
- 2 世話人になる人は、資格経験は問わないが、その住居から1km内外に住んでいて、すぐ対処にあたられる人である。

理想は、法人がそのような住居をもっていて、職員が世話人になればいいかもしれませんが、理想と現実の狭間で、今後地域福祉の中でグループホームは、果たして行政が考えている程に増やしていけるだろうかと危惧しています。

身体障害者にも、このグループホームの利用を要請しているのですが、現在は福祉ホームのみが認可されています。

石川県セルブ地図



石川県社会就労センター利用者数

平成11年2月1日現在

種別	定員(人)	現員(人)	充足率(%)
A. 知的障害	741	696	93.9
A. 身体障害	333	270	81.0
A. 精神障害	20	19	95.0
B. 小規模	455	393	86.3
合計	1,549	1,378	88.9

A：会員施設 B：準会員施設

編集後記

いよいよ今世紀最後の年、皆さん記念にのこる何かを始めてみてはどうでしょうか。最後の年だから海外旅行にいこう、などなど……。

編集委員も今年は、皆様からのご意見、ご感想を反映させ、記念になるセルブニュースにしていきたいと思ひます。引き続きご協力の程、お願い致します。